

群馬県内におけるDXの取り組み

群馬経済研究所 主任研究員 半田浩己

調査のポイント

県内においてDXに取り組む企業や自治体に、その内容や効果についてヒアリングした結果をまとめた。

要約

- 経営者のリーダーシップがDX推進には重要な要素である。
- DXの取組事例として、従来紙で行っていた管理業務をタブレットやスマホに移行することによるペーパーレス化、定型業務のRPA^{注1}による自動化、チャット^{注2}導入による連絡の円滑化、などが挙げられる。
- DX推進のためには、経営者のリーダーシップおよび組織体制の構築などのハード面と人材の育成といったソフト面、両方の整備が必要である。
- DXの効果として、業務の効率化と経費削減に加え、社員がデジタル化に対して積極的に取り組むという意識改革もみられる。
- 課題としては、「デジタル人材育成ノウハウの不足」、「効果的な人材育成の答えがない」、「DX推進を専担で行う部署が必要」などの声が聞かれた。

注1) 主に定型的業務を、パソコン内のソフトウェア型のロボットが代行・自動化すること (RPA=Robotic Process Automation)

注2) チャットは、インターネットを介して、複数人がテキスト形式によりリアルタイムで会話ができるコミュニケーションツール。